



Shunya Ito

医療ジャーナリスト・写真家。国内外を問わずさまざまな医療現場を精力的に取材。2008年10月に起きた「脳出血・経路たらい回し事件」では、東京都の周産期救急搬送システムの不備を徹底検証した記事が09年第15回「読者賞」が選出され「ジャーナリズム賞」大賞を受賞。近著に『オトコの病状 新常識』『オトナの病状 新常識』（ともに講談社）。HP http://shunya-do.jp/

行政は積極的に汚染された土壌を除去しようとしていない。農作物や水道水などの安全基準である暫定規制値も、海外と比較すると非常に高く設定されています。ただ事ではないのではないかと不安と、真実を知りたいという意欲が、子どもを持つ母親たちを目覚めさせたのです。

放射能から子どもを守る会を発足させた主婦

現在、「NO！放射能「江東こどもを守る会」の代表を務める石川綾子さんという方がいるのですが、彼女は元々僕のツイッターのフォロワーの一人でした。

「20ミリシーベルト問題」を巡って世間が大騒ぎになった時、実際に放射能測定をどうしたらいいのか、という話を交わしたこともあります。彼女もテレビ・新聞の報道の仕方に不信感を持ち、政府や地方行政の対応の遅れに大きな不安感を持っていました。そして、彼女は5月19日に前出の会を発足させたのです。特に彼女は、放射能に詳しいわけでも、これまで政治的な活動をしてきたわけでもありません。子どもを守りたい一心から、行動に移したのです。

「命」の問題を本当に解決できるのは母親 放射能という見えない津波の影響で母親たちが集まり始めて、一つの方向へ新しいエネルギーとして大きくうねりだし、社会へ改善を求めていることは心強い限りです。 社会性に目覚めた母親たちに期待を寄せています。 この国がこれまで軽視してきたとも言える一人の「命」の問題を、本当に解決できるのは子どもを持つ親たちではないでしょうか。 日本には国会でも地方で

も女性議員は数多くいます。が、現実の社会では女性の政治的な進出が凄く遅れていると思います。本当に地域社会を背中に背負った女性議員が登場する前夜というのが今ではないでしょうか。 正直言えば、今、僕のツイッターのフォロワーたちのなかには地域を代表する区議会議員とか都議会議員になってほしいと思う人もいます。 僕は真の政治というのは、まずは生活者の視点や大切な命というベシックなものを守ったり支えたりすること、安心とエネルギーが生まれるものだと考えます。そこからさらに色々なことがスピニングアウトしていく、やがて企業や社会にもそうした動きが大きなエネルギーとして働いていくというのが原点だと思います。 安心して暮らしていけるからこそ、国にも活力が生まれる。何より子どもは、この国の未来です。 母親たちが起こしつつある行動は、まさにそうした意味で政治の原点そのものなのではないでしょうか。

「子どもの『命』を守る 社会性に目覚めた母親たち」

伊藤隼也氏が5月初旬に監修・出演したテレビ番組でのある提言が、自身のツイッターのフォロワー数を激増させた。理由は、小さな子どもを持つ母親たち。国や既存メディアに不信感を持つ母親たちが子どもを守るため、動き始めた。

3月11日の大震災を機に、もともとダイナミックに変貌を遂げたのは、子どもを持つ母親たちの意識と行動ではないでしょうか。 僕はそれ以前からツイッターをやっていましたが、単に医療の情報提供、情報交換の場として利用するだけで、医療以外の部分であり一般の人が利用することとは視野に入れていませんでした。僕のツイッター(@ioshunya)のフォロワーの質が決定的に変化したのは、5月10日にフジテレビの朝の情報番組「とくダネー」で、僕が文部科学省の施策「学校等における子ども20ミリシーベルト」基準に異議を唱えてからでした。

「直ちに人体に影響を与える値ではない」 政府は繰り返しているが、本当に安全なのだろうか。テレビや新聞が発信している放射能測定の情報や「安全である」と言う識者のコメントは本当なのだろうか。国やメディアに不信感を持っていても真剣に考え、行動を起こすことがあまりなかった母親たちは、子どもの命を守るために変わりました。 放射能に関する真実の情報を自ら求め、集め始めたのです。 実際に国が言っていることや、テレビや新聞の情報も、多くのことが真実ではなかったと次々に分かりました。

例えば、事故直後から政府は福島原発で「メルトダウンは起きていない」と言い続けていました。テレビや新聞もそれにならった報道を続けていた。しかし、5月になって事故直後にメルトダウンが起きていたことを東京電力は認めたのです。テレビや新聞が政府や東京電力の言うままに報道していたことが明らかになったわけですね。 そして、いまだに政府や



「NO！放射能「江東こどもを守る会」は、6月7日、都庁で会合し江東区の汚染処理施設「東部スラッジプラント」近くのグラウンドの土から高濃度の放射性セシウムを検出したと、独自調査の結果を発表し、都と区に施設周辺の除染作業やさらなる調査を求める緊急要望書を提出した。

THEME 母親

伊藤隼也